

プレスリリース

没後 70 年

戦争を越えて

—写真家ロバート・キャパ、愛と共感の眼差し—

A Century of War Caught on Camera: A Homage to Robert Capa 70 Years After His Death

東京富士美術館では、2024 年 4 月 9 日(火)より 6 月 23 日(日)まで、「没後 70 年 戦争を越えて —写真家ロバート・キャパ、愛と共感の眼差し—」を開催します。

戦争の世紀と呼ばれた激動の 20 世紀、カメラを武器に五つの戦場を駆け抜けた伝説の写真家ロバート・キャパ。本年は、キャパが 1954 年 5 月にインドシナの戦場で亡くなってから 70 年の節目を迎えます。

ジャーナリストを志したハンガリーの青年アンドレ・フリードマンは、最愛の人ゲルダ・タローとの出会いを経て、写真家「ロバート・キャパ」となり、あるときは戦場で、またあるときは街中で、ジャーナリズムの歴史に残る数々の写真を撮影しました。

彼のレンズは、過酷な戦場にあろうと日常の街中にあろうと、懸命に生きる人間の、苦しみや悲しみ、楽しみや喜びなど、ありのままの素顔を捉えています。そこには他者に対する愛と共感の眼差しが溢れているのです。

本展では、ロバート・キャパが伝説の写真家となるまでの軌跡を、彼の代表作によってたどります。また当館が所蔵するキャパのヴィンテージ・プリント 75 点を 2 期に分けて展示するほか、キャパが日本滞在中に撮影した多数の写真とともに、最期に所持していたカメラを特別公開いたします。

◆開催概要

展覧会名： 没後 70 年 戦争を越えて

—写真家ロバート・キャパ、愛と共感の眼差し—

A Century of War Caught on Camera: A Homage to Robert Capa 70 Years After His Death

会 場： 東京富士美術館 本館 企画展示室
〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1

会 期： 2024(令和 6)年 4 月 9 日(火)～6 月 23 日(日)
※5 月 20 日(月)に一部作品の展示替えを行います。

休館日： 毎週月曜日
(4 月 29 日、5 月 6 日は開館、4 月 30 日、5 月 7 日は休館)

開館時間： 10:00～17:00(16:30 受付終了)

入場料金： 大人 1,500(1,200)円、大高生 900(800)円、
中小生 500(400)円、未就学児無料
※新館常設展示室もご覧になれます
※（ ）内は各種割引料金 [20 名以上の団体、65 歳以上
の方、当館公式 SNS 登録者ほか]
※土曜日は中小生無料
※障がい児者、付添者 1 名は通常料金の半額 [証明書を
ご提示ください]

主 催： 東京富士美術館

後 援： ハンガリー大使館、リスト・ハンガリー文化センター、
八王子市、八王子市教育委員会

問い合わせ先： TEL.042-691-4511 FAX.042-691-4623
E-mail: toiawase@fujibi.or.jp

◆展示構成

第一章 ロバート・キャパの軌跡 ―セレクション―

第一章では、ロバート・キャパのデビュー作となった《講演するレオン・トロツキー》をはじめ、キャパの名を世界に知らしめたスペイン内戦を取材した《崩れ落ちる兵士》、彼の戦場カメラマンとしての名声を不動のものとしたノルマンディー上陸作戦を撮影した《D デイ》など彼の代表作を通して、ハンガリー出身の野心あふれる青年アンドレ・フリードマンが写真家ロバート・キャパとなる軌跡を追います。

主な出品作品：



【図版左】《デンマークの学生に、ロシア革命史について講演するレオン・トロツキー、コペンハーゲン、デンマーク》 1932年11月27日 ロバート・キャパ



【図版右】《共和国軍の兵士たち、バルセロナ、スペイン》
1936年8月 ロバート・キャパ



【図版左】《共和国軍兵士の死（崩れ落ちる兵士）、エスぺホ近郊、コルドバ戦線、スペイン》 1936年9月初旬 ロバート・キャパ



【図版右】《箸を持つ子ども、広東市近郊の孤児院、中国》
1938年7-8月 ロバート・キャパ



【図版右】《オマハ・ビーチに上陸するアメリカ軍、D デイ、ノルマンディー、フランス》 1944 年 6 月 6 日 ロバート・キャパ



【図版右】《パリの解放を祝うパレードで戦車の上に座る男の子、パリ、フランス》 1944 年 8 月 26 日 ロバート・キャパ



【図版左】《1938 年以来初めてユダヤ教会で行われたロシュ・ハシャナ礼拝式で読書する少年たち、ベルリン、ドイツ》 1945 年 9 月 7 日 ロバート・キャパ



【図版右】《集団農場の微笑む女、ウクライナ》 1947 年 8 月 ロバート・キャパ

第二章 ロバート・キャパをめぐる人々

第二章では、ゲルダ・タローやアンドレ・ケルテス、デイヴィッド・シーモアやアンリ・カルティエ＝ブレッソンなど、キャパと友情を結んだ写真家たちの作品を紹介するとともに、ジョン・スタインベックやアーネスト・ヘミングウェイ、イングリッド・バーグマンなどキャパが撮影した友人たちを、作品を通して紹介します。

主な出品作品：



【図版左】《キジ狩りの合間に休息するアーネスト・ヘミングウェイと息子グレゴリー、サン・ヴァレー、アメリカ》 1941年10月 ロバート・キャパ



【図版右】《映画『凱旋門』の感傷的なシーンを撮影中のイングリッド・バーグマン、ハリウッド、アメリカ》 1946年7-10月 ロバート・キャパ



《海岸のパブロ・ピカソと息子クロード、ゴルフ＝ジュアン、フランス》
1948年8月 ロバート・キャパ

第三章 ロバート・キャパー ヴィンテージ・コレクション

第三章では、当館が所蔵する貴重なロバート・キャパのヴィンテージ・プリントのコレクション 75 点を紹介します。

ヴィンテージ・プリントは、撮影時の感動や情緒を最も良く伝える、撮影直後にプリントされた写真です。ここで紹介する作品も、キャパが硝煙の漂う戦場、または速報性を要するために可能な限り撮影現場の近くの現像施設で速やかにプリントされ、全世界にニュース原稿として使われたものです。

※この章の作品は、保存上の理由により 75 点を半期ごとに分けて展示します。5 月 20 日に展示替えを行います。

主な出品作品：



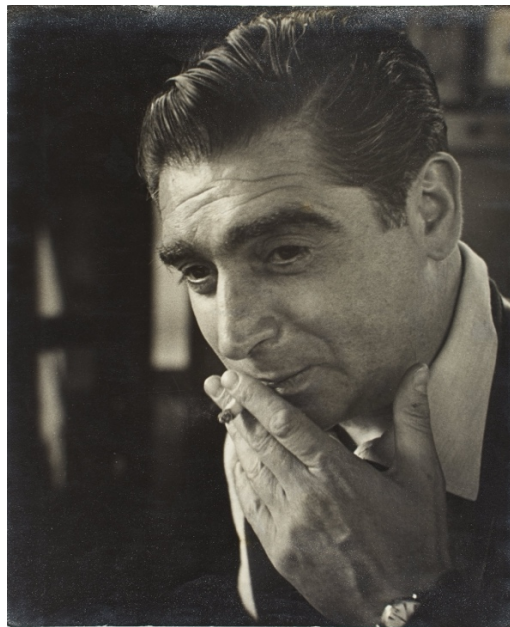
【図版左】《国際連盟会議場でエチオピア皇帝ハイレ・セラシエの演説を妨害したとして誤認逮捕されたスペイン人ジャーナリストと彼の口を塞ぐ警察官、ジュネーブ、スイス》 1936 年 6 月 ロバート・キャパ ※展示期間：4 月 9 日～5 月 19 日

【図版右】《国際旅団の解団式でフアン・モデストのスピーチを聴く兵士たち、レス・マシエス、バルセロナ近郊、スペイン》 1938 年 10 月 ロバート・キャパ ※展示期間：5 月 21 日～6 月 23 日

第四章 ロバート・キャパと日本

第四章では、1954 年 4 月に日本を訪れたキャパが 3 週間に渡って撮影した作品を紹介します。キャパは「日本は写真家の天国だ」と語り、西洋とは異なる日本の伝統文化や風俗、人々の日常の暮らしをカメラに収めました。日本人の何気ない仕草や子どもたちの表情を写した写真の数々には、市井の人々に対するキャパの愛情を見ることができます。

主な出品作品：



【図版左】《東京駅のプラットフォームで一緒に電車を待つ子どもたち、東京、日本》
1954 年 4 月 ロバート・キャパ

【図版右】《静岡駅頭でのロバート・キャパ、静岡、日本》 1954 年 4 月 19 日 金原眞八

第五章 旅立ち ―そして伝説へ―

第五章では、キャパの最後の旅となったインドシナを撮影した作品を紹介します。1954年5月、日本滞在中のキャパは「ライフ」誌の要請を受けて、仏領インドシナ(現在のベトナム)へと旅立ちます。そして同地でフランス軍の同行取材中に地雷を踏んでその生涯を閉じました。ここではキャパが死の間際に撮影した写真を紹介します。また彼が最期の瞬間まで所持していたニコン S のカメラを特別公開いたします。

主な出品作品：



【図版右】《ナムディンからタイビンへの道、キャパが地雷を踏む直前に撮った最後の写真、ベトナム》1954年5月25日 ロバート・キャパ

【図版左】ロバート・キャパ愛用の最期のカメラ(ニコン S)

※作品は全て東京富士美術館所蔵

◆記念講演会

日時：5月18日(土) 14:00-15:00

会場：東京富士美術館 ミュージアムシアター

講師：小川潤子(フォト・コーディネーター/元マグナム・フォト
東京支社 ディレクター)

定員：100名(先着順、申し込み不要)

料金：無料(ただし、展覧会の入場料金が必要、土曜は中小生無料)

※関連イベントの詳細につきましては今後ホームページ

www.fujibi.or.jpにてお知らせします

ロバート・キャパ (1913-1954) | Robert Capa について

ロバート・キャパ(本名アンドレ・フリードマン)は1913年、ハンガリーのブダペストに生まれた。

1930年代から写真家として活動を開始し、スペイン内戦や第二次世界大戦など5つの戦場で注目すべき作品を数多く撮影した。とくにスペイン内戦時に兵士が撃たれた瞬間を捉えたと言われる《崩れ落ちる兵士》や、ノルマンディー上陸作戦に同行して撮影した《D デイ》は報道写真の歴史に残る傑作である。被写体に限りなく近づいて撮影する彼の手法は、常に死と隣り合わせの臨場感を生み出した。

1947年にアンリ・カルティエ＝ブレッソンやデヴィッド・シーモアらとともに国際写真家集団「マグナム・フォト」を結成。

1954年に来日し、東京、静岡、奈良、大阪などで市井の人々を撮影。第一次インドシナ戦争を取材中に地雷に触れ、40年の生涯を閉じた。



《ロバート・キャパ、パリ、フランス》 1951年 ルース・オーキン撮影

東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロ可可・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



この件に関するお問い合わせ先
東京富士美術館 企画広報課

TEL.042-691-4825 FAX.042-691-4623 Email:toiawase@fujibi.or.jp

〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1